



# 子育ての知恵袋

## 「発音が育つ時期」

成長とともに、正しく発音できるようになる時期があります。

### 「正しい発音が身につく時期の目安」

2歳代 母音・パ行・バ行・マ行・ヤユヨワン

3歳代 タ行（ツ以外）・ダ行（ツ以外）・ナ行・ガ行・チャ行

4歳代 カ行・ハ行

5歳代 サ行・ザ行・ラ行・ツ

\*個人差はあります。

これらの中で、舌の先を使ってつくる音はどれだと思われますか？

→答えは「ナ行・タ行ダ行・サ行ザ行・ラ行」（チ・チジ・シは除く）です。たくさんありますね。

舌の同じ場所を使ってこれだけの音をつくるためには、唇の動きや息のコントロールなどを舌の動きに協調させることが必要で、これらの協調した運動は、話す時だけでなく、遊ぶ時や食べる時にも必要になります。

例えば、シャボン玉やハーモニカなどは、唇ではさんで、息を強くまたは弱く吹く運動を、遊びながら獲得していきます。このように「発音」と「遊ぶこと・食べること」は密接な関係にあります。次回は、口の機能を育てる「口遊び」をご紹介します。



## ～ことのはを考える～

保育園で冬に5歳児年長と一緒にわらべうたをした時の話を一つ。

「♪おじいさんおばあさん、なにくってかかんだ？えびくってかかんだ♪」

円の中を歩く子どもが「えび」の部分を変えて答える問答形式の役交代遊びです。役は素晴らしく全うしてくれるのですが、えびしか出てきませんでした。最後円になったままの子ども達に他に何かあるか聞いてみると、「たこ」「いか」「くり」など次々に言うのです。

あるやん！ですよね。何故でしょう。役を担った子どもが思いつかない子ども達だったのでしょうか。そうではないと考えます。

このように様々な状況や要因によって自己表現・言語表現は変化します。大人も思い当たるのでは？

一人注目されるオ二役を嫌がる子もおり、この自意識は大事な成長ですが、5歳児年長になると遊びが続く事に意識の比重を置く自律・自己コントロール、協調性が育ってきます。わらべうたは、言葉をリズムに乗せて動きを合わせるため、リズムが崩れないと楽しいものです。

何度かお話ししていますが、失敗を恐れる子どもが増えているのを実感しています。〇か×ではない世界はたくさんあるはずなのに。先ほどのわらべうたで言うと、二文字でなくてもよく、そういう柔軟さを子どもは元来持ち合わせているのです。『それでいいよ』と子どもが自分で考え、発した言葉を受け止めたいですね。受け止めているつもりでも、大人が考えていた言葉が出た途端、「そう、〇〇」と反応し、子どもの自由発言が終わる保育場面があったりします。その時周りの子ども達は何を感じているのか、それを理解すると大人の役割に気づくのではないのでしょうか。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなごう  
夢と希望のもてる たらっこを  
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

〒665-8665 宝塚市東洋町1-1

電話 0797-71-1141(市役所)

0797-77-2132(直通)

FAX 0797-71-1891

E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。